

第1回 2007年11月3日(土) 13:00~14:30

講演題目 『ニーベルンゲンの歌』とドナウ河畔の町パッサウ

#### 講演内容

ドイツ語圏における二つの主要河川ラインとドナウは、それぞれ歴史的、文化的に重要な役割を果たしてきた。しかしまた両河川では、その地理的条件によって醸成された文化の相貌も異なっていた。中世においてドナウ河流域は文化の先進地ラテン世界の洗礼をいち早く受けただけでなく、十字軍の遠征に際しても中東に向かう主要なルートであった。

中世文学の傑作の一つである英雄叙事詩『ニーベルンゲンの歌』はこの文化圏で誕生した作品であり、ドナウ河畔の町パッサウと切っても切れない関係にあった。18世紀以来、この叙事詩の成立場所をめぐって喧しい議論が沸き起こったが、今日ではパッサウが重要な役割を演じたという点で見解の一致をみている。つまり、司教を中心としたパッサウの宮廷がこの作品の成立と大いに関わっていたということである。本講演では、この経緯を明らかにするとともに、『ニーベルンゲンの歌』の魅力の一端も併せて紹介したい。

はじめに

- 1 英雄叙事詩『ニーベルンゲンの歌』
- 2 司教座都市パッサウ
- 3 パッサウ司教ヴォルフガー
- 4 パッサウとウィーンの宮廷
- 5 ヴォルフガーと歌人ヴァルター

おわりに

## 資料1 『ニーベルンゲンの歌』あらすじ

### 第1部「ジークフリートの殺害」(「ジークフリート伝説」)

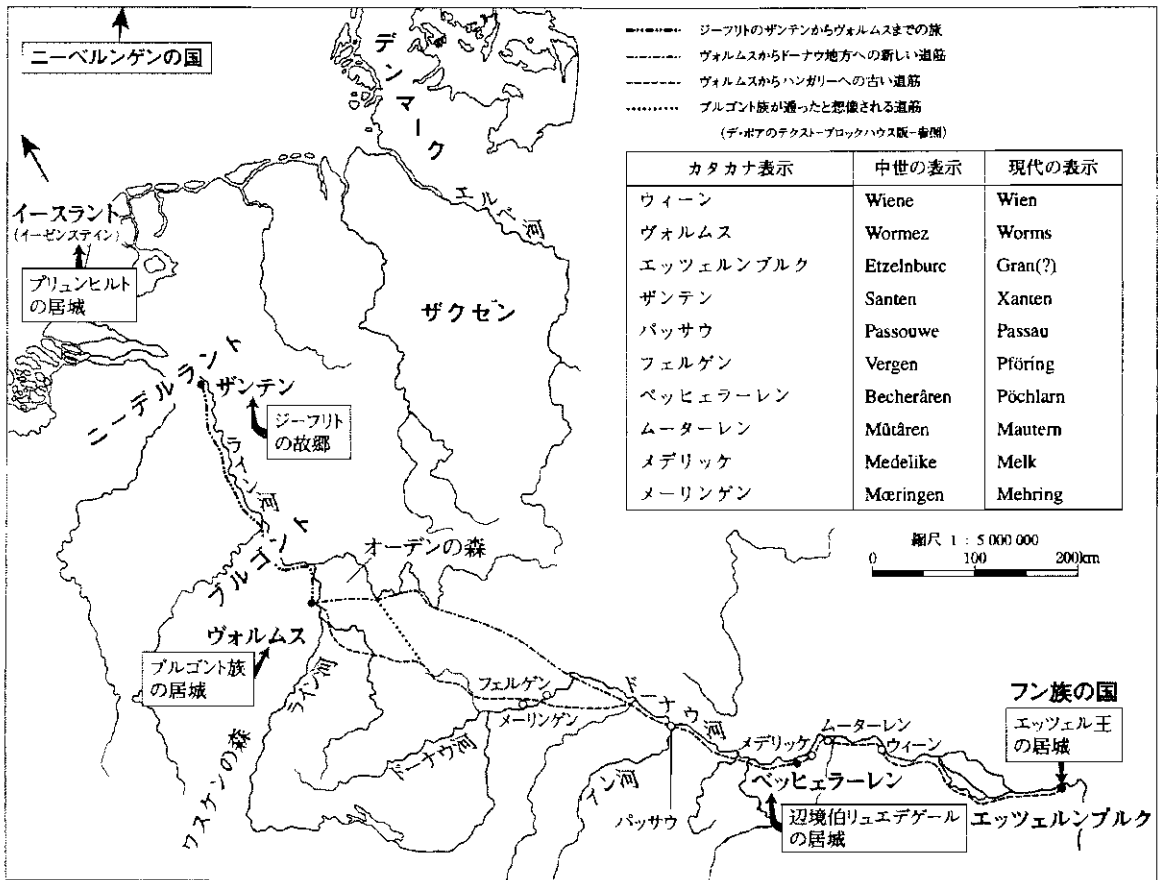
ライン河畔のウォルムスに城を構えるブルグント王国に、類まれな美女クリームヒルトが生まれ育ちます。同じころ、ライン下流クサンテンには、ひととき武勇に優れた若武者ジークフリートがあり、ニーベルンゲン族を討って膨大な宝をわがものとし、また彼は龍を倒してその血を浴び、不死身となります。やがてジークフリートはクリームヒルトに求婚します。彼女の兄ブルグント王グンターは、かねてより思いを寄せるアイスランド女王ブリュンヒルトへの求婚の企てに手を貸すなら妹を与えようと約束します。ブリュンヒルトは超人的な力の持ち主で、彼女を打ち負かす者のみを夫とすると自らに誓っています。とうてい力では匹敵できないグンターを、ジークフリートはニーベルンゲンの宝の一つである「隠れ蓑」を使って援護します。このことによりグンターは勝利を占め、ブリュンヒルトを妻に迎えることに成功します。やがて二組の華麗な結婚式がウォルムスで催されます。しかし、グンターはその夜、ブリュンヒルトの拒絶に遭います。またしても助けを求められたジークフリートはこの度も「隠れ蓑」を使って彼女をくじき、彼女から指輪と帯を奪い取ります。彼はのちにこれらの品を軽率にもクリームヒルトに与えます。10年後、クサンテンにいたジークフリート夫妻がウォルムスの宮廷に招かれ、盛大な宴が行われます。武芸の観戦中、夫の価値をめぐって二人の王妃の間に口論が起こり、こともあろうに聖堂の前でクリームヒルトは指輪と帯を証拠に、ブリュンヒルトを嘲笑します。辱められ復讐を図ろうとするブリュンヒルトに、かねてよりジークフリートの武力と財力に恐れを抱いていたハーゲンが同調します。ジークフリートは狩りに誘われ、不死身の体のため一か所の弱点、肩甲骨と肩甲骨の間をハーゲンに刺され、絶命します。ニーベルンゲンの財宝もハーゲンによってライン河に沈められ、クリームヒルトは固く復讐を誓います。

### 第2部「クリームヒルトの復讐」(クリームヒルト伝説)

第一部の終結から13年の歳月が流れます。そのころ、妃を失ったフン族の王エツェルが側近たちに勧められて、クリームヒルトに求婚します。彼の強大な力を借りれば復讐も叶うと考えた彼女は、ドナウ河を下ってエツェル王のもとに嫁ぎます。それからさらに13年が経過します。ついにクリームヒルトはグンター王、ハーゲンをはじめ一門の人々を夏至の祭に招待し、これを報復の機会とします。ハーゲンはクリームヒルトの真意を見抜きますが、卑怯者と謗られるのを潔いこととは思わず、一行はこの招待を受けエツェル王の宮廷に向かいます。遠来の客人を迎えるはずの饗宴はたちまち血生臭い殺戮の場と化します。戦いは一進一退、夜を徹して続けられ、倒れる兵士たちは数知れません。主だった武将たちも次々と命を落とします。ブルグント側の生き残りはついにグンターとハーゲンのみとなります。ついに二人も捕らえられ、グンターはクリームヒルトの命を受けた部下の手により、またハーゲンはクリームヒルト自らの手で首を刎ねられます。しかしかにかに夫の復讐とはいえ、同族のをことごとく無残に打ち殺す王妃の姿に怒りを覚えた忠臣ヒルデブランドは、彼女に一太刀を浴びせます。かくしてブルグント族の血を引く者はすべてが滅びることになる。

資料2 『ニーベルングの歌』 関連地図

『ニーベルングの歌』 関連地図



資料3 ドナウ河流域地図



#### 資料4 司教座都市パッサウの略年表

紀元前 5 世紀から紀元前 1 世紀	今日の旧市街にケルト人の居住区
紀元後 1 世紀から紀元後 5 世紀	今日の旧市街とイン河畔にローマ人の城砦
5 世紀	バイエルンとオーストリアの守護聖人セヴェリーンが（今日のセヴェリーン教会近くのイン河畔に小修道院を設立
739 年	ボニファティウス、教皇の意向によりパッサウを司教座都市として承認する
740 年頃	ニーデムブルク修道院の設立（1010 年に帝国直轄）
789 年	カール大帝、パッサウのライバルのザルツブルクを大司教の在所とする
977 年	皇帝オット二世、パッサウを占領し破壊する
9 世紀	パッサウのシュテファン大聖堂がローマ・カトリックのドナウ東域の母教会に指定される
1100 年頃	今日の市域に城が存在した
1133 年	イン河に木造の橋が架けられ、渡しが廃止される
1164 年	初めて「秋市」が史料に登場する
1209 年	新市街も市壁に囲まれる
1217 年	皇帝フリードリヒ二世から司教ウルリヒに帝国領主の称号が授けられるが、パッサウ市民の願望であった「自由帝国都市」への昇格は叶わなかった
1219 年	領主司教、防衛のための城「オーバーハウス」の建設に着手
1257 年	「イルツ河畔の都市」がボヘミアとの塩の交易にとって重要な「黄金の道」の出入口として史料に登場
1278 年	パッサウの第二の橋がドナウ河に架けられる
1367 年	パッサウ市民が領主司教に反旗を翻すが、流血の惨事は收拾される
1407 年	後期ゴシック様式の大聖堂の礎定式が行われる
1408 年	「イン河畔の町」と「イルツ河畔の町」を囲む防壁が完成
1476 年	ポグロム（ユダヤ人迫害）。いわゆる「聖餅侮辱」の廉で多くのユダヤ人が殺害され、シナゴークが破壊される。このことの贖罪のために、「救霊教会」が誕生する

資料5 ヴォルフガーと歌人ヴァルター

1) パッサウからウィーンへの旅の勘定書

Sequenti die apud zei[zemurum] walthero cantori de vogelweide pro pellicio V.  
sol. Longos.

ツァイ [ゼルマウアー] にて歌人フォーゲルヴァイデのヴァルターに毛皮外套の代  
金として大シリング貨5枚を与えた。

2) 歌人ヴァルターがアクイレイア総大司教ヴォルフガーを讃えた歌

Die wile ich weiz dri hove so lobelicher manne,  
so ist min win gelesen unde suset wol min pfanne.  
der biderbe patriarke missewende fri,  
der ist ir einer, so ist min höfscher trost zehant da bi,  
Liupolt, zwir ein fürste, Stir und Osterriche.  
niemen lept den ich zuo deme geliche:  
sin lop ist niht ein lobelin: er mac, er kan, er tuot.  
so ist sin veter als der milte Welf genuot:  
des lop was ganz, ez ist nach tode guot.  
mirst vil unnot daz ich durch handelunge iht verre striche. (L 34,34)

かくも誉れ高い方々の3つの宮廷を知るうちに、  
わが葡萄酒は用意され、わが鍋もよく煮立っています。  
優れた、非の打ちどころのない総大司教、  
この方がその1人です。この方と並んで、わが宮廷の保護者もおられます。  
それはシュタイアとオーストリアの二重君主、レオポルト殿。  
この方に比すべき者は誰もいません。  
殿の受ける称賛は小さくありません。殿には能力と心得があり、実行なさいます。  
さらに彼の叔父君は施し好きのヴェルフのような気性の方です。  
この方の誉れは完きものでした。死後もよい状態をたもっています。  
わたしは饗応を受けるため遠く彷徨い歩く必要はまったくありません。